

# 2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会資料

 KURABO

2024年11月19日



I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

## 長期ビジョン 2030

目指すべき姿：イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ

「Creation '21」  
イノベーションによる収益  
拡大と企業価値の向上

「Progress '24」  
高収益事業の拡大と持続可能な  
成長に向けた基盤事業の強化

【長期ビジョン2030】  
イノベーションと高収益を  
生み出す事業体制への変革

2019.4 前中期経営計画

2022.4 中期経営計画

2025.3

2031.3

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
より良い未来社会の実現

成長・注力事業

成長市場における注力  
事業への経営資源の集中

高収益

持続的  
成長

基盤事業

収益力の強化

ESG経営の推進

## 「長期ビジョン2030」の実現

イノベーションと高収益を  
生み出す事業体制への変革

最適な事業ポートフォリオの  
構築

サステナビリティの実現

ESG経営の推進

### 前中計からの課題

- 繊維独自技術商品の拡販未達
- 海外事業の拡大未達
- ロボットビジョンやスマートフィットの事業化遅延
- 繊維事業の早期黒字化

収益力の向上

### 環境変化への対応

- 原・燃料価格高騰、サプライチェーンの混乱
- アフターコロナを見据えた動き
- DXを含むイノベーションの進展
- 新素材・新機能に対する需要増
- SDGsや気候変動対応への意識の高まり

### 【基本方針】

高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化

### 【重点施策】

- ① 成長・注力事業の業容拡大と基盤事業の収益力強化
- ② R & D活動の強化による新規事業創出と早期収益化
- ③ SDGs達成への貢献
- ④ 多様な人材の活躍推進

I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

- 前年同期比で減収も、中間期における連結営業利益、連結経常利益は過去最高益を更新。

## 修正予想比では売上高、利益ともに上振れ

- 売上高 71,845百万円 前年同期比 ▲1.1%減（修正予想比 +2.6%増）
  - 営業利益 4,241百万円 前年同期比 +9.4%増（修正予想比 +28.5%増）
  - 経常利益 5,100百万円 前年同期比 +12.7%増（修正予想比 +21.4%増）
- 売上高は、半導体製造装置向け「高機能樹脂製品」や太陽電池向け「機能フィルム」が好調に推移した**化成品事業**が大きく拡大するも、カジュアル向けが低調であった**繊維事業**の落ち込みや**環境メカトロニクス事業**で工作機械事業を譲渡した影響もあり、僅かに減収となった
  - 利益面では、**化成品事業**における高付加価値商品を中心とした販売拡大や価格改定の効果のほか、海外子会社の損益改善が進んだ**繊維事業**の黒字化により、計画を上回る大幅な増益を実現した

# 第2四半期（中間期）業績の概要（全社）

**減収ながら大幅増益。半導体製造装置向け「高機能樹脂製品」等が好調であった  
化成品事業の拡大により、売上高及び利益ともに当初及び修正予想を上振れ**

(単位：百万円)	24/3期 第2四半期 (中間期) 実績		25/3期 第2四半期 (中間期) 実績		前年同期比		当初予想比 (5/13公表)		修正予想比 (8/7公表)	
		構成比		構成比		増減率		差異率		差異率
売上高	72,653		<b>71,845</b>		△808	△1.1%	+2,845	+4.1%	+1,845	+2.6%
売上原価	58,353	80.3%	<b>57,189</b>	<b>79.6%</b>	△1,164	△2.0%	—	—	—	—
販管費	10,422	14.4%	<b>10,415</b>	<b>14.5%</b>	△7	△0.1%	—	—	—	—
営業利益	3,877	5.3%	<b>4,241</b>	<b>5.9%</b>	+363	+9.4%	+1,941	+84.4%	+941	+28.5%
経常利益	4,525	6.2%	<b>5,100</b>	<b>7.1%</b>	+575	+12.7%	+2,200	+75.9%	+900	+21.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,522	3.5%	<b>3,425</b>	<b>4.8%</b>	+902	+35.8%	+1,525	+80.3%	+725	+26.9%
設備投資額	2,045		<b>1,814</b>		△230					
減価償却費	2,446		<b>2,561</b>		+114					

化成品事業が半導体製造装置向け「高機能樹脂製品」や太陽電池向け「機能フィルム」の伸長により大幅な増収増益となり、全社業績を大きくけん引。一方、繊維事業はカジュアル向けなどが苦戦する中で、海外子会社の損益改善により減収ながら黒字化。環境メカトロニクス事業は工作機械事業の譲渡やウエハー洗浄装置の販売台数減により減収減益も、エレクトロニクス部門での半導体製造装置向け液体成分計やエンジニアリング部門での環境関連ビジネスは好調。



(単位：百万円)	24/3末	24/9末	増減	備考
流動資産	89,320	86,035	△3,284	売上債権や現金及び預金の減少
（現金及び預金）	(16,156)	(14,245)	(△1,911)	
固定資産	103,469	104,997	+1,528	
（有形・無形固定資産）	(46,364)	(45,963)	(△400)	
（投資その他の資産）	(57,104)	(59,033)	(+1,929)	株価上昇に伴い 投資有価証券が増加
資産合計	192,789	191,032	△1,756	
流動負債	44,055	39,514	△4,540	短期借入金や仕入債務の減少
固定負債	30,659	31,283	+624	繰延税金負債の増加
負債合計	74,714	70,797	△3,916	
純資産	118,074	120,235	+2,160	その他有価証券評価差額金の増加
（株主資本）	(98,788)	(99,460)	(+672)	
負債・純資産合計	192,789	191,032	△1,756	
自己資本比率	60.6%	62.3%	+1.7pt	
ROE（自己資本純利益率）	6.2%	—	—	
ROA（総資産営業利益率）	5.0%	—	—	
ROIC（投下資本利益率）	5.2%	—	—	

株価上昇の影響

(単位：百万円)	24/3期 第2四半期 (中間期)	25/3期 第2四半期 (中間期)
営業キャッシュ・フロー	5,833	4,600
投資キャッシュ・フロー	△1,974	△1,701
財務キャッシュ・フロー	△3,982	△4,904
現金及び現金同等物増減額	109	△1,905
現金及び現金同等物の中間期末 残高	10,469	14,218
有利子負債	13,538	10,542
設備投資額	2,045	1,814
減価償却費	2,446	2,561

有形及び無形固定資産の取得 △1,729百万円

配当支払△1,083百万円 (24/3期期末配当)  
自己株式の取得 △1,687百万円  
借入金の返済(純額) △2,228百万円

I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

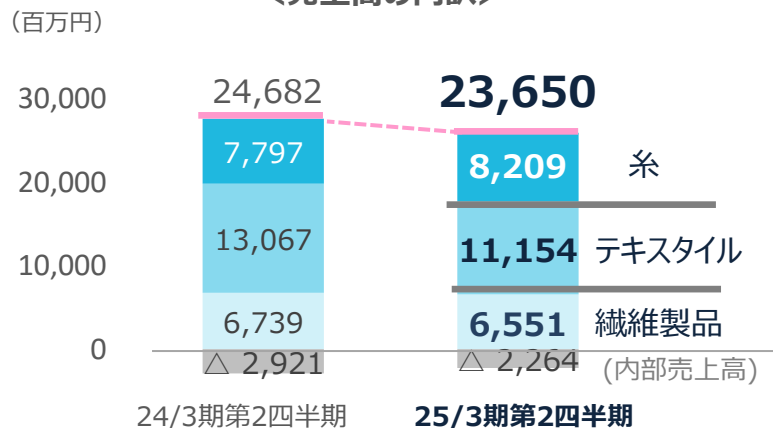
## 第2四半期（中間期）業績の概要

カジュアル向けの不振により減収も、タイ、インドネシア子会社の損益改善や中東向け生地への輸出増加により、営業黒字化。暑熱環境下におけるリスク低減の管理システム「Smartfit（スマートフィット）」の伸長も収益に貢献。

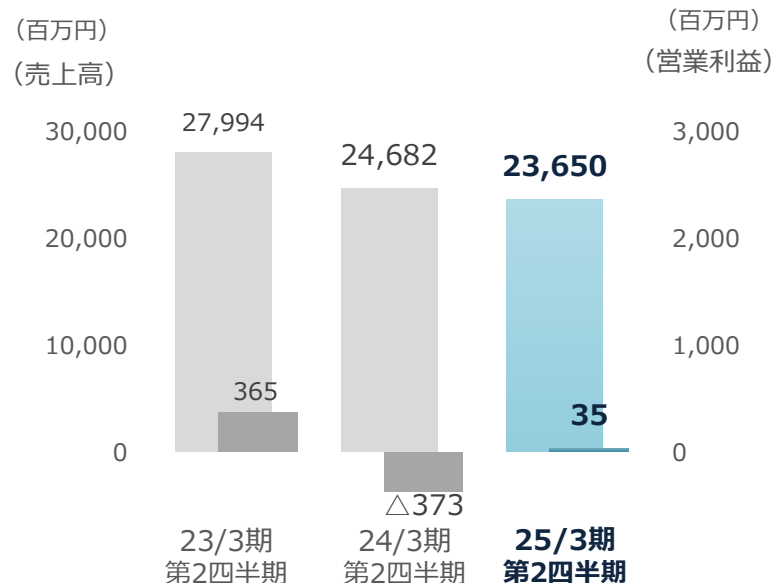
## サブセグメントの状況

- 糸** 国内インナー向けは前年同期並みに推移したが、ブラジル、タイ子会社の販売が堅調。
- テキスタイル** 国内、中国子会社ともにカジュアル素材の受注が減少。
- 繊維製品** 「Smartfit(スマートフィット)」は受注増も、カジュアル向け製品の受注減。

### ＜売上高の内訳＞



### ＜売上高・営業利益の推移＞



## 今後の業績見通し（2025/3期 業績予想）

**売上高 520億円**      **営業利益 3億円**

カジュアル向けの不振により減収も、下期からのユニフォーム向けの受注回復や海外子会社(ASEAN、ブラジル)の採算改善を織り込み年間でも黒字化。原料改質技術を活用した高機能コットン糸「NaTech(ネイテック)」、防災・難燃素材「BREVANO(ブレバノ)」、暑熱リスク管理・体調管理システム「Smartfit(スマートフィット)」などの独自技術商品も伸長し、収益改善に貢献。

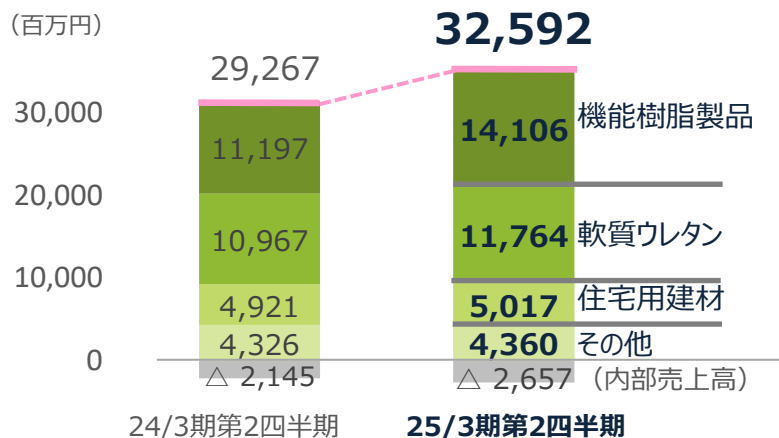
## 第2四半期（中間期）業績の概要

半導体市況の回復を受け、半導体製造装置向け「高機能樹脂製品」が収益拡大に寄与。「機能フィルム」は太陽電池向けの受注が好調。「軟質ウレタン」は受注が回復し増収、価格転嫁も進み、採算改善。住宅着工件数が減少する中、「住宅用建材」では集合住宅向けプレキャストコンクリート製品が伸長。

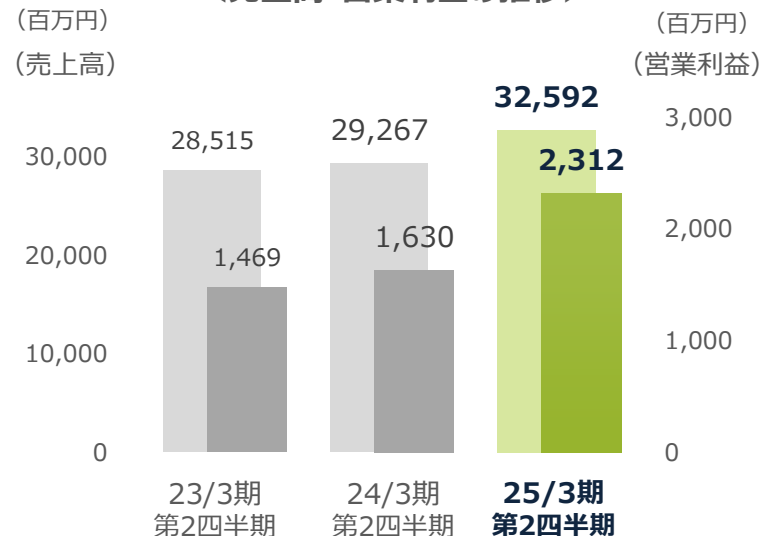
## サブセグメントの状況

機能樹脂製品	半導体製造装置向け高機能樹脂製品は市況回復により受注増。機能フィルムは太陽電池向けの受注が好調。
軟質ウレタン	自動車内装材向けは自動車生産の回復に伴い、国内の受注が順調、中国子会社は低調。
住宅用建材	断熱材が低調も、一昨年立ち上がった集合住宅向けプレキャストコンクリート製品が受注増。
その他	不織布は、前年同期並みで推移。

＜売上高の内訳＞



＜売上高・営業利益の推移＞



## 今後の業績見通し（2025/3期 業績予想）

**売上高 670億円**      **営業利益 48億円**

- 「高機能樹脂製品」は半導体製造装置メーカーからの受注が引き続き増加。「機能フィルム」も太陽電池向けで増産。
- 自動車内装材向け「軟質ウレタン」は、需要の安定化により、堅調に推移。
- 住宅用建材は、集合住宅向けプレキャストコンクリート製品が牽引。増産体制の確立に注力。

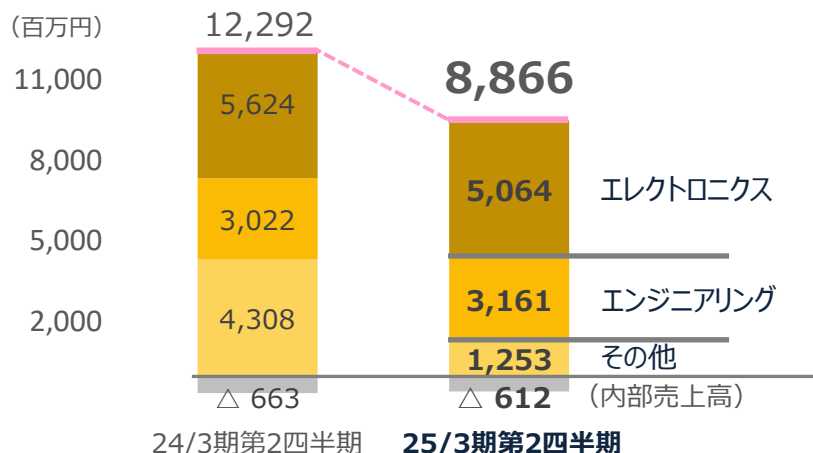
## 第2四半期（中間期）業績の概要

工作機械事業の譲渡やウエハー洗浄装置の販売台数減により減収減益も、エレクトロニクス部門での半導体製造装置向け液体成分計やエンジニアリング部門での環境関連ビジネスは好調。バイオメディカル部は攪拌脱泡装置が堅調に推移し、前期並みを維持。

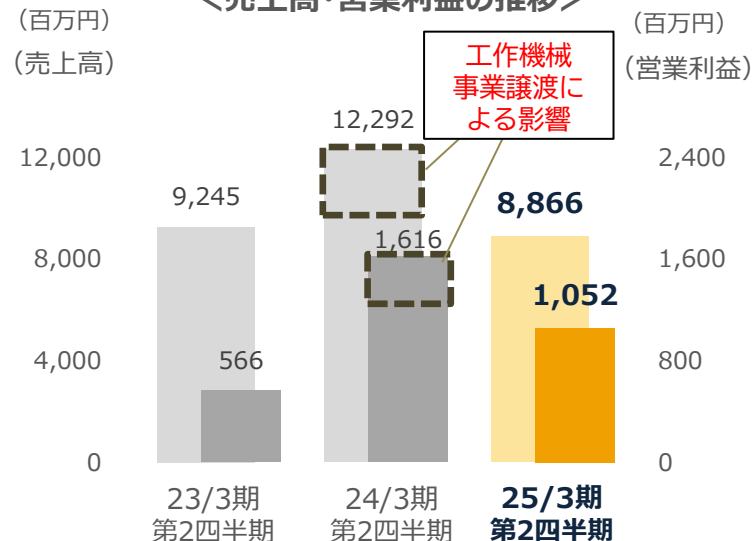
## サブセグメントの状況

- エレクトロニクス** 半導体製造装置向け液体成分濃度計が順調も、ウエハー洗浄装置の販売台数が減少。
- エンジニアリング** 半導体業界向け薬液供給装置が低調も、排ガス処理設備は順調。子会社での大型プラント案件も寄与。
- その他** バイオメディカルは、前年同期並みも、工作機械事業の譲渡により大幅減収。

＜売上高の内訳＞



＜売上高・営業利益の推移＞



## 今後の業績見通し（2025/3期 業績予想）

**売上高 213億円**      **営業利益 28億円**

- 「エレクトロニクス」は、ウエハー洗浄装置の販売台数が減少するも、FA機器や液体成分濃度計が堅調。
- 「エンジニアリング」は、薬液供給装置が受注減も排ガス処理設備の受注は順調。
- 「バイオメディカル」は、遺伝子抽出・解析事業に注力。

## 第2四半期（中間期）業績の概要

「食品」は即席麺具材の販売が順調で、「サービス」のホテル関連が引き続き堅調に推移し増収となるも、仕入れコストの上昇等の影響を受け減益。

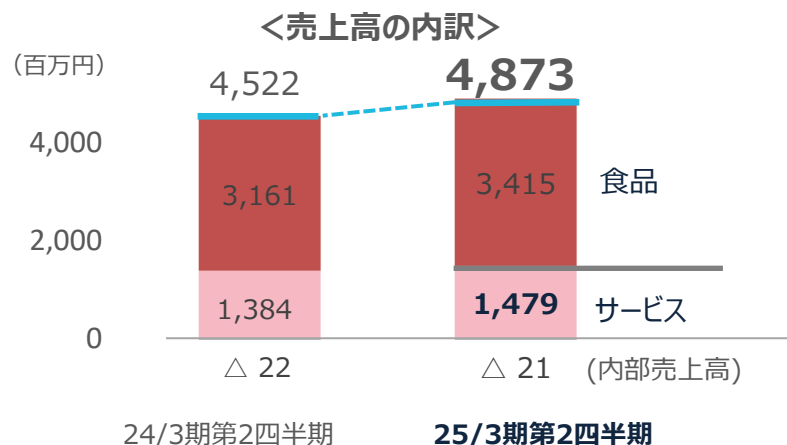
## サブセグメントの状況

食品

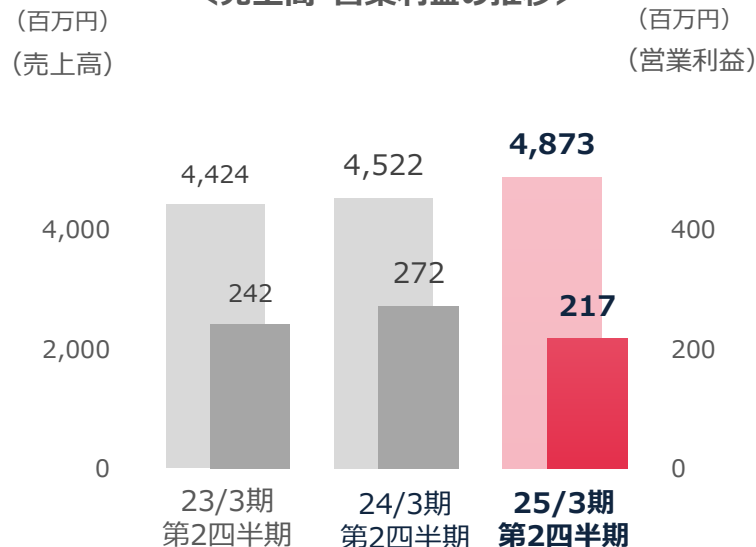
成型スープの販売が低調も、即席麺具材の販売が順調

サービス

好調な国内旅行やインバウンド需要の影響により宿泊やレストランが堅調



## ＜売上高・営業利益の推移＞



## 今後の業績見通し（2025/3期 業績予想）

売上高

100億円

営業利益

6億円

- 「食品」は、長引く物価上昇による消費者の買い控えや低価格志向は継続する見込み。安価で付加価値の高い商品の開発・提案を推進し、堅調に推移する見通し。
- 「サービス」のホテル関連は、観光事業支援策はなくなったものの、個人、団体、インバウンドともに高稼働率を見込む。旅行・宴会需要の回復を捉えた、魅力的な商品・サービスの開発・提供などによる集客力の強化を図る。

## 第2四半期（中間期）業績の概要

売上高は前年同期並みだが、租税課金の増加などにより減益。

## 事業例（一部）



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり地域の活性化に貢献

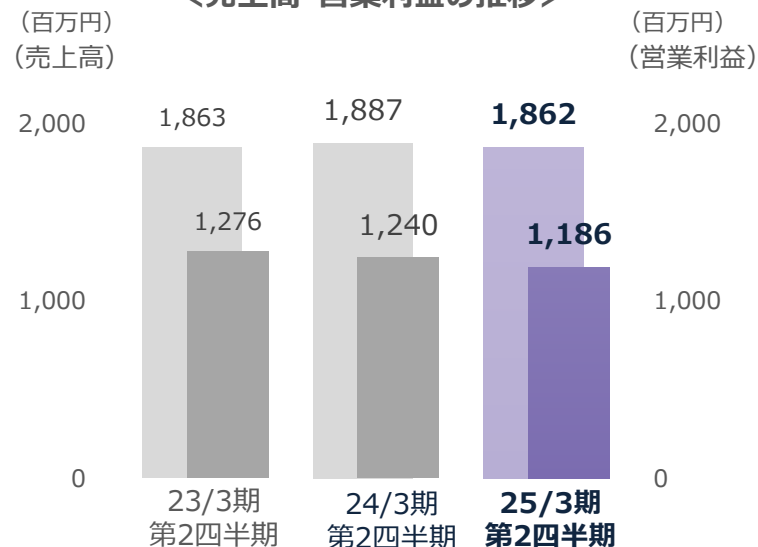


資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供

## <売上高・営業利益の推移>



## 今後の業績見通し（2025/3期 業績予想）

売上高

**37億円**

営業利益

**22億円**

売上高は前年並み。

租税課金の増加などにより減益。

長期安定収益の維持・確保に努める。



I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

第2四半期（中間期）は当初及び修正予想を上回るも、下期からの前倒し等もあり、通期の業績予想は据え置き。将来を見据えた成長・拡大投資を加速する計画。

(単位：百万円)	24/3期		25/3期予想				前期比 ②－①	
	通期実績 ①		期初予想 (5/13公表)		修正予想 ② (8/7公表)			
		構成比		構成比		構成比		増減率
売上高	151,314		153,000		<b>154,000</b>		+2,686	+1.8%
営業利益	9,186	6.1%	9,300	6.1%	<b>9,600</b>	<b>5.1%</b>	+414	+4.5%
経常利益	10,191	6.7%	10,200	6.7%	<b>10,800</b>	<b>5.5%</b>	+609	+6.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,738	4.5%	7,200	4.5%	<b>7,500</b>	<b>3.8%</b>	+762	+11.3%
設備投資額	4,959	－	9,500	－	<b>9,100</b>	－	+4,140	+83.5%
減価償却費	5,086	－	5,400	－	<b>5,200</b>	－	+113	+2.2%

## 株主還元方針

- 安定的かつ継続的な利益還元を基本とし、本中計期間における総還元性向は **50%以上** を目標

## 2025年3月期 配当予想(増配)

- 2025年3月期の期末配当予想を 60円/株→**90円/株(+30円/株)**に増配
- 中間配当 60円/株と合わせて、年間配当 **150円/株** (前期比**+50円/株**)の大幅増配を予定

## 自己株式取得・消却

### 自己株式の取得状況・消却

2023年12月19日付け取締役会決議に基づく自社株式の取得を実施完了

- 取得した株式の総数: 1,212千株(うち当期取得 398千株)
- 取得価額の総額: 3,999百万円( // 1,705百万円)

※ 自己株式1,000千株の消却を決議 (2024年11月7日)

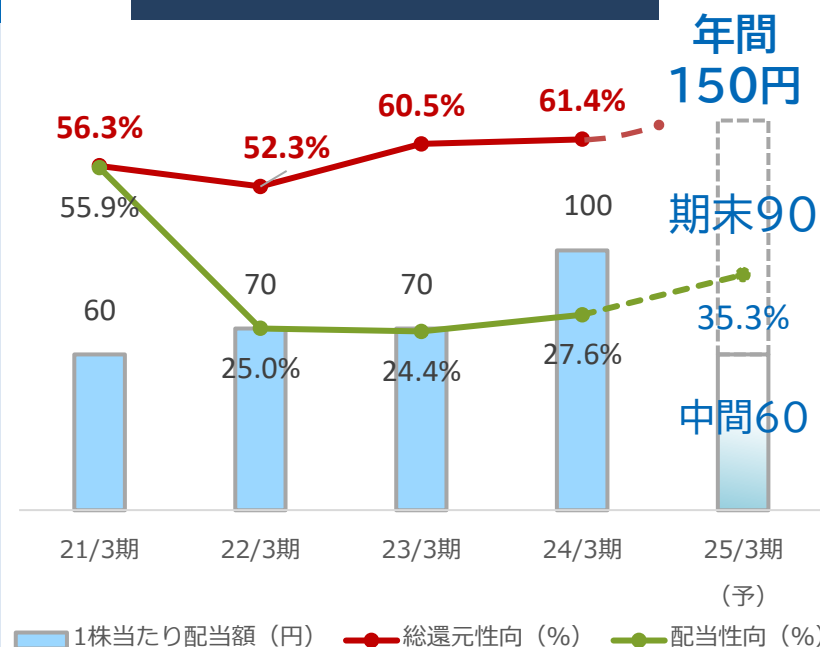
- 消却予定日 2024年11月25日

### 自己株式の取得 (新規)

### 自己株式取得に係る事項を決議 (2024年11月7日)

- 取得株式総数: 上限 1,300千株
- 取得株式総額: 上限 **60億円**
- 取得期間: 2024年11月8日~2025年10月31日

### 配当及び総還元性向の推移



I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

## 【全社目標】

(基準年度)(初年度)

(最終年度)

(単位：億円)

	22/3期 実績 ①	23/3期 実績	24/3期 実績
売上高	1,322	1,535	1,513
営業利益	75	86	91
経常利益	87	100	101
親会社株主に帰属する 当期純利益	56	55	67
売上高営業利益率	5.7%	5.7%	6.1%
ROE (自己資本純利益率)	5.9%	5.6%	6.2%
ROA (総資産営業利益率)	4.5%	5.1%	5.0%
ROIC (投下資本利益率)	4.6%	5.3%	5.2%

25/3期 修正予想②	25/3期 目標	増減 ② - ①	CAGR
1,540	1,600	+217	5.2%
96	96	+20	8.4%
108	102	+20	7.1%
75	72	+18	10.2%
6.2%	6.0%	+0.5 pt	
—	7.0%	—	
—	5.3%	—	
—	5.6%	—	

## 【事業別目標】

(単位：億円)

	22/3期 実績 ①	23/3期 実績	24/3期 実績	
繊維事業	売上高	446	565	511
	営業利益	△1	3	△2
化成品事業	売上高	516	597	613
	営業利益	29	37	39
環境メカトロ ニクス事業	売上高	235	242	255
	営業利益	27	28	35
食品・サービス 事業	売上高	84	92	95
	営業利益	2	4	6
不動産事業	売上高	37	37	37
	営業利益	27	24	22

25/3期 修正予想②	25/3期 目標	増減 ② - ①	CAGR
520	540	+73	5.2%
3	8	+4	—
670	630	+153	9.0%
48	39	+18	17.2%
213	290	△22	△3.4%
28	30	+0	0.3%
100	103	+15	5.7%
6	7	+3	30.3%
37	37	△0	—
22	23	△5	—

## 重点施策 ① 独自技術を活用した高性能素材やサステナブル素材の販売拡大

▶原料改質技術を活用した高性能コットン素材「**NaTech(ネイテック)**」は秋冬用インナー素材を中心に順調に拡大。春夏向けの機能向上とインナー以外への展開に注力。



▶暑熱リスク管理・体調管理システム「**Smartfit(スマートフィット)**」は急成長。事業拡大に伴うサービス基盤の整備やデバイスの機能の強化が課題。



▶ユニフォーム分野では防災・難燃素材「**BREVENO(ブレバノ)**」、「**PROBAN(プロバン)**」の受注が好調。

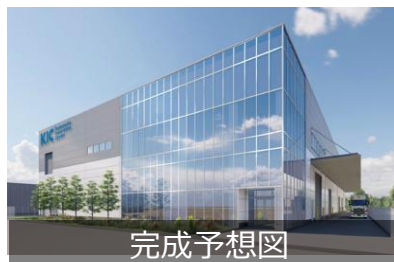


## 重点施策 ② サプライチェーン全体を意識したQR対応と生産性向上

▶生産計画や機台管理のデジタル化を推進し、QRや生産性向上に取り組むも、受注量の回復が遅れた影響で、効果の検証に至らず。


**重点施策 ① 半導体やエネルギー関連市場における注力事業への経営資源集中** 

- 高機能樹脂製品の生産・開発体制増強に向け、**熊本イノベーションセンター**を建設中。2025年4月の操業開始予定。

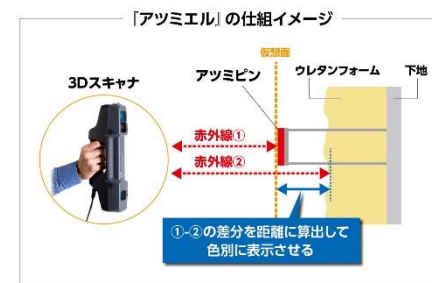
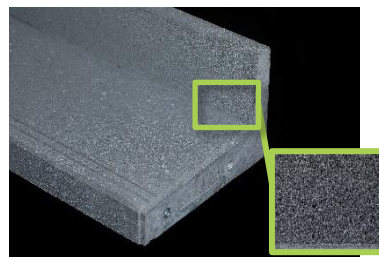


- エネルギー関連市場(太陽電池)向け機能フィルムが拡大。受注増に対応するため生産能力アップに取り組む。



**重点施策 ② 軟質ウレタンや住宅用建材など基盤事業の販売・生産体制の効率化と新規ビジネスの拡大** 

- 軟質ウレタンは国内の車両分野が堅調。価格転嫁の推進や生産拠点の移管・統合により収益性が改善。海外はブラジルが好調で新規ライン増設。
- 住宅用建材は、DX化を推進し、生産性が向上。プレキャストコンクリート製品事業は受注伸長。現場発泡硬質ウレタンフォーム厚さ計測システム「**アツミエル**」を開発、サービスの提供を開始。



アツミエル

重点施策 ① 商品力強化による競争優位性の獲得と海外市場への拡販



▶ ロボット用高速3Dビジョンセンサー「クラセス」はセンサーヘッド分離型などの開発を進め、引き合いは増加も、販売進捗は遅れ気味。



▶ JR東海と東海道新幹線の軌道材料（レール・枕木等）を高速走行中でも計測できるシステムを共同開発。



東海道新幹線（N700S）※JR東海提供

▶ 路面検査装置は海外展開が進まず。  
▶ 攪拌脱泡装置は医薬品、エネルギー関連分野を中心に輸出拡大。



攪拌脱泡装置



路面検査装置

重点施策 ② 社会課題の解決に貢献する商品群の市場投入



- ▶ 飼料高騰等による酪農家の経営環境が悪化する中、家畜排せつ物をサラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生する装置「FUNTO」は着実に実績化。小型バイオマス燃焼装置の開発を進める。
- ▶ 排ガス処理設備やバイオマス等の焼却炉分野が好調。新エネルギー対応の焼却炉への脱硝装置を初受注。



I 「長期ビジョン2030」と「Progress'24」

II 2025年3月期 第2四半期（中間期）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2025年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress'24」の進捗

VI 次期中期経営計画に向けて

## グループの収益向上を支える事業ポートフォリオの構築

成長を続ける市場に向け、収益力の高い注力事業へ経営資源を集中し、事業の拡大を加速する。

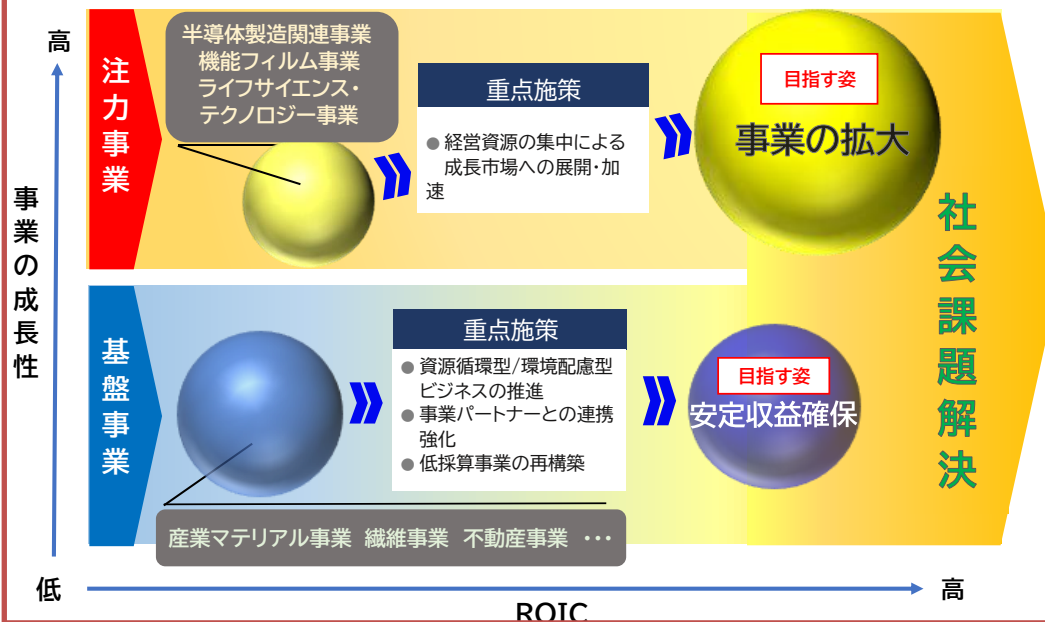
半導体製造関連市場	高機能プロダクツ事業 エレクトロニクス事業	高機能樹脂製品、機能フィルム、ウエハー洗浄装置、In-Situプロセスモナ、薬液供給設備 ほか
自動化・制御装置市場	ライフサイエンス・テクノロジー事業	ロボットビジョンシステム、FA装置、攪拌脱泡装置、理化学機器、遺伝子・体外診断関連商品、フリーズドライ食品ほか
メディカル市場		

社会課題の解決に資する基盤事業における安定収益確保と低採算事業の収益構造の転換を図る。

自動車市場 住宅・建材市場 衣料品市場 不動産賃貸市場	産業マテリアル事業	軟質ウレタン、住宅用建材、断熱材、繊維製品、環境プラント設備、バイオマス発電所、不動産賃貸 ほか
	繊維事業	
	不動産事業	

事業収益の向上については、「Progress'24」の最終年度に推進するとともに、2025年度からスタートする次期中期経営計画には、より実効性を高めた施策を織り込むことで、持続的に企業価値を高めていくための最適な事業ポートフォリオを構築していく。

### 目指すべき事業ポートフォリオのイメージ



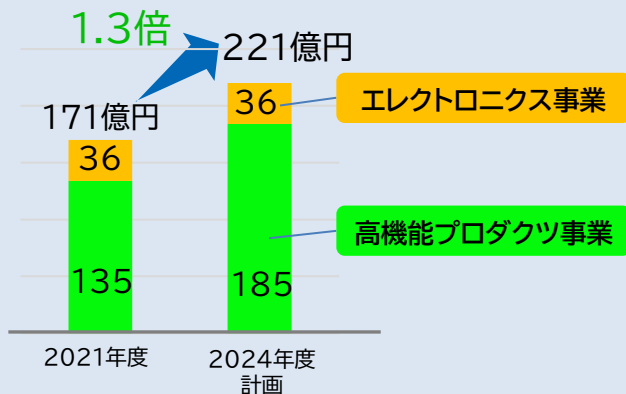
高機能プロダクツ事業

エレクトロニクス事業

化成品事業

環境メカトロニクス事業

売上高



高機能プロダクツ事業・エレクトロニクス事業の売上高(内訳)

製品	売上高 (2021年度実績)	売上高 (2024年度計画)	CAGR (2021年度比)
半導体製造関連製品			
高機能樹脂製品	133億円	179億円	10%
半導体製造工程フィルム	2億円	6億円	36%
ウエハー等洗浄装置	20億円	15億円	△9%
液体成分濃度計	12億円	18億円	15%
薬液供給装置	4億円	3億円	△9%

## 当社の戦略(現中期計画)

高機能プロダクツ事業

高機能樹脂製品の生産能力増強

- 2025年4月 熊本イノベーションセンター操業開始 <投資額:約31億円>

クリーン化

自動化・  
省人化

先進技術

- ✓ 生産能力・開発体制を **2** 倍以上に増強

- 高機能樹脂製品製造用のフッ素樹脂素材の内製化推進 <投資額:約4億円>

- ✓ 高機能樹脂製品の製造に使うフッ素樹脂素材の生産設備を導入



<熊本イノベーションセンター完成予想図>

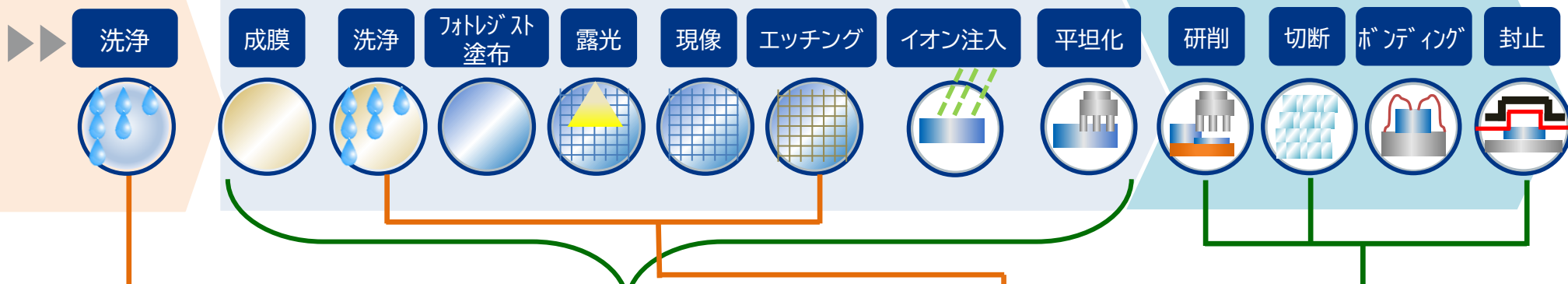
# 注力事業：半導体製造関連製品の紹介

## ■ 「ウエハー/半導体製造工程」向けに幅広い製品を提供

ウエハー製造工程

半導体製造工程<前工程>

<後工程>



### 環境メカトロニクス事業



ウエハー洗浄装置

ウエハー製造の最終工程で使用する洗浄能力と処理速度に優れた装置



薬液供給装置

高純度薬液の調合・充填設備および貯留・供給設備

### (前工程の各装置用部品に使用) 化成品事業



高性能樹脂製品

半導体製造装置向けの耐薬品性に優れたクリーン性が高い各種加工製品

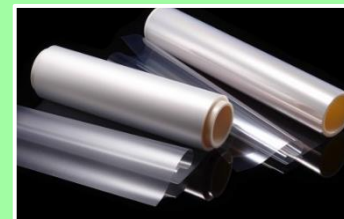
### 環境メカトロニクス事業



薬液濃度計

半導体製造工程用に薬液を濃度管理

### (後工程の各工程用フィルムに使用) 化成品事業



機能フィルム

半導体製造工程向けの、耐熱性や伸縮性、離型性に優れた各種フィルム

- 当社の強みであるビジョンセンサーや遺伝子解析技術を基盤に、グループシナジーを発揮し、医療や自動化・ロボット、食品など幅広い分野に拡大する

## 現中計

- バイオメディカル
- FA機器
- ロボットビジョン
- 食品加工

## 課題

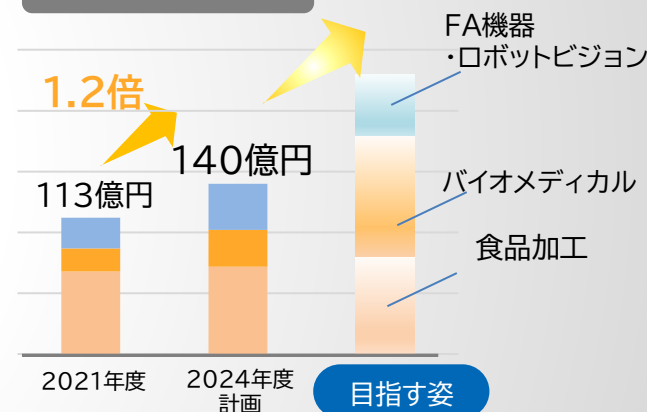
- ✓ 事業領域間のシナジーが不十分

## 次期中計



## ライフサイエンス・テクノロジー事業

## 各分野の売上高



## 取組み例

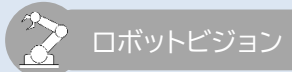
### ■ 攪拌脱泡装置による調剤自動化

## 顧客・社会課題

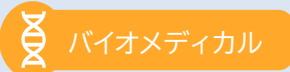
- ・ 限られたスペースでの調剤作業
- ・ 人手不足



ビジョンセンサー技術



攪拌脱泡装置



## 調剤自動化

### パッケージ化



- ・ 業務効率化
- ・ 人手不足解消

暮らしの  
安全・安心・快適を  
支える事業へ

## 資本効率の向上や資本コスト低減のための活動推進

持続的に企業価値を高めていくための最適な事業ポートフォリオの構築による ROEの向上策を進めるとともに、資本効率を意識した資本政策や、株主・投資家との対話の充実を目的としたIR活動を推進することで、PBR 1倍以上を目指す。

## 資本効率を意識した施策の推進

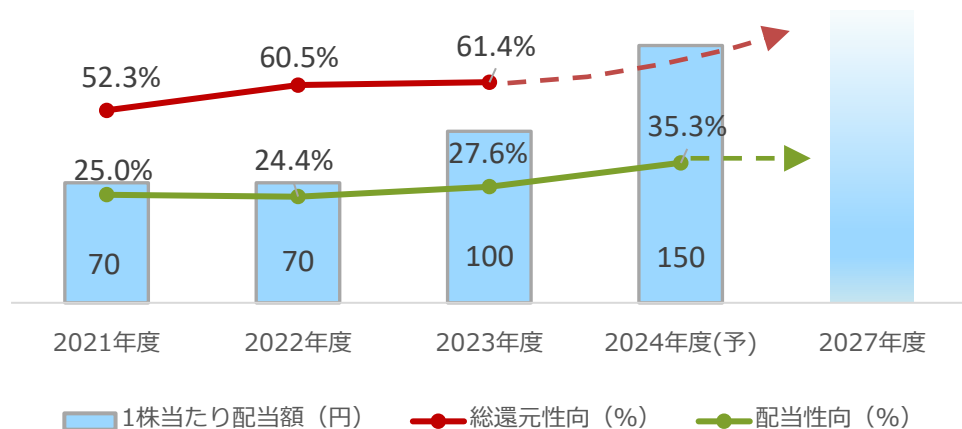
### 規律ある資金配分の実践

- 現行の中期経営計画「Progress'24」で設定した資本政策の目標(総還元性向 50%以上)を確実に実践する。
- 成長投資を実行した上でも資金余剰が生じる場合は、更なる株主還元策の実行や、次期中期経営計画における総還元性向の目標を更に引き上げることを検討する。

### 政策保有株式の圧縮

政策保有株式を、まずは連結純資産の20%以下まで段階的に売却を進め、そこで得たキャッシュは自己株式の取得のほか、事業ポートフォリオを組み換えていく中で、M&Aを含む成長投資や構造改革などに充当していく。

1株当たりの配当額 / 総還元性向 / 配当性向の推移



## 株主・投資家との対話の充実を目的とした、IR活動の推進

現在実施している決算説明会や投資家との個別ミーティングに加え、当社グループの成長戦略等に対する理解を深めていただくため、外部のプラットフォーム等を活用した企業情報の配信など、情報発信力を強化する。

**K KURABO**

## 将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

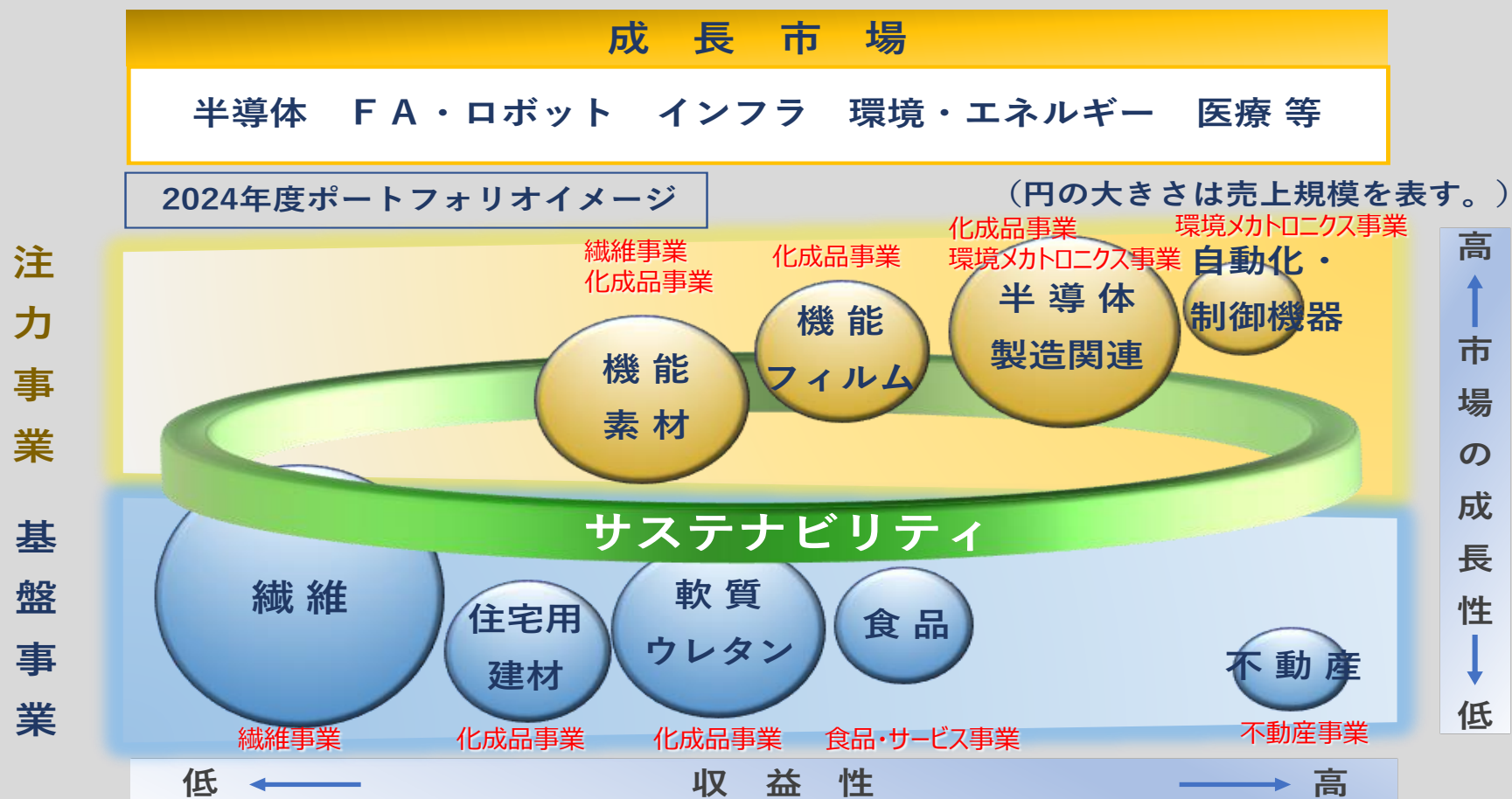
また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。



# Appendix

## 基本方針

成長市場における当社グループの注力事業に**経営資源を集中**し、業容拡大を図るとともに、**基盤事業の収益力強化**に注力する



# 第2四半期（中間期）業績の概要（セグメント別）

	(単位：百万円)	24/3期 第2四半期 (中間期) 実績		25/3期 第2四半期 (中間期) 実績		前年同期比	
			利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	24,682		<b>23,650</b>		△1,032	△4.2%
	営業利益	△373	—	<b>35</b>	<b>0.1%</b>	+408	—
化成品事業	売上高	29,267		<b>32,592</b>		+3,324	+11.4%
	営業利益	1,630	5.6%	<b>2,312</b>	<b>7.1%</b>	+682	+41.8%
環境メカトロニクス 事業	売上高	12,292		<b>8,866</b>		△3,426	△27.9%
	営業利益	1,616	13.2%	<b>1,052</b>	<b>11.9%</b>	△564	△34.9%
食品・サービス事業	売上高	4,522		<b>4,873</b>		+350	+7.8%
	営業利益	272	6.0%	<b>217</b>	<b>4.5%</b>	△54	△20.1%
不動産事業	売上高	1,887		<b>1,862</b>		△25	△1.3%
	営業利益	1,240	65.7%	<b>1,186</b>	<b>63.7%</b>	△54	△4.4%

# 2025年3月期 通期業績予想：セグメント別

(単位：百万円)		24/3期		25/3期				前期比 ②－① 増減率	
		通期実績 ①		期初予想		修正予想 ②			
			利益率		利益率		利益率		
繊維事業	売上高	51,103		<b>52,000</b>		<b>52,000</b>		+897	+1.8%
	営業利益	△257	△0.5%	<b>100</b>	<b>0.2%</b>	<b>300</b>	<b>0.6%</b>	+557	－
化成品事業	売上高	61,318		<b>66,000</b>		<b>67,000</b>		+5,682	+9.3%
	営業利益	3,963	6.5%	<b>4,700</b>	<b>7.1%</b>	<b>4,800</b>	<b>7.2%</b>	+837	+21.1%
環境メカトロニクス事業	売上高	25,530		<b>21,300</b>		<b>21,300</b>		△4,230	△16.6%
	営業利益	3,574	14.0%	<b>2,800</b>	<b>13.1%</b>	<b>2,800</b>	<b>13.1%</b>	△774	△21.7%
食品・サービス事業	売上高	9,572		<b>10,000</b>		<b>10,000</b>		+428	+4.5%
	営業利益	641	6.7%	<b>600</b>	<b>6.0%</b>	<b>600</b>	<b>6.0%</b>	△41	△6.4%
不動産事業	売上高	3,790		<b>3,700</b>		<b>3,700</b>		△90	△2.4%
	営業利益	2,332	61.5%	<b>2,200</b>	<b>59.5%</b>	<b>2,200</b>	<b>59.5%</b>	△132	△5.7%

# マテリアリティ（重要課題）の特定と主な施策

## 【マテリアリティ】

安心・安全で快適な  
社会の実現

地球環境への配慮と  
循環型社会への貢献

多様な人材の活躍推進と  
人権尊重

持続的な成長に向けた  
ガバナンス・CSRの強化

## 【主な施策】

※赤字は売上高の伸びや収益性改善に直接結びつく施策

- デジタル社会の進展に貢献する半導体市場  
関連製品、サービスの開発と提供
- 労働人口の減少対策のためのFA・ロボット事業展開と  
生産拠点のスマートファクトリー化、QR体制の構築
- 革新的な技術や高度な品質を支える研究開発と  
知財戦略の推進
- 安心・安全に貢献する商品の販売拡大

- 環境配慮型商品の拡大
- 循環型ビジネスモデルの構築
- カーボンニュートラルへの取り組み推進
- 環境負荷を低減する技術開発
- 事業継続計画（BCP）の強化

- 人権教育とサプライチェーン管理の徹底
- 多様な人材の活躍推進（DE&I、エンパワメント）
- 柔軟な働き方推進、エンゲージメント向上
- 安全衛生管理の徹底、健康経営の推進
- 自動化、DX推進による生産性向上

- コンプライアンス教育の徹底、内部統制の強化
- ステークホルダーとの対話の充実
- 非財務情報の開示の充実
- 資本収益性や株価を意識した経営
- 事業ポートフォリオ戦略、経営資源配分
- 事業リスク管理の強化

## 【対応するSDGs】




# SDGsへの取組み

## 【基本方針】

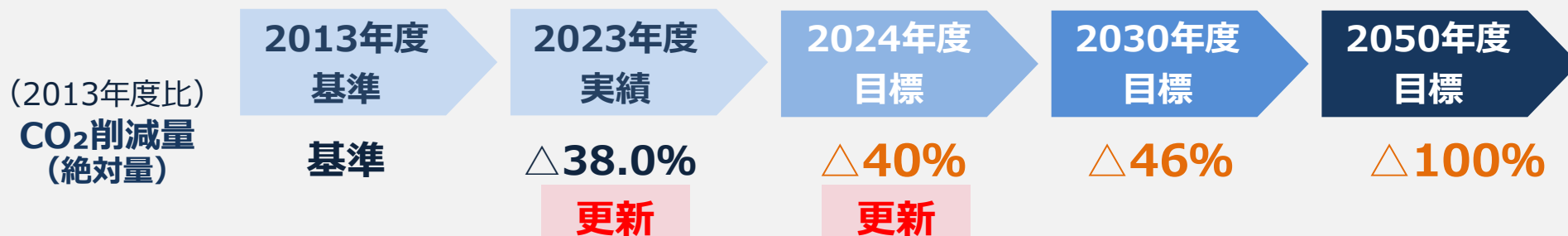
持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

**「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」**のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
  - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
  - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
  - ④ 信頼される企業づくりの推進

## クラボウグループの長期環境目標

クラボウグループは、政府目標である2030年度にCO<sub>2</sub>排出量を46%削減（2013年度比）、2050年度にカーボンニュートラルの達成に向けて、CO<sub>2</sub>排出量削減のための推進体制を強化し、具体的な施策を進めてまいります。



## 取組み

### 脱炭素社会・資源循環型社会に向けた取組み

#### ●カーボンニュートラルロードマップに基づくCO<sub>2</sub>排出量の削減

更新

- ✓ 太陽光パネルの設置（クラボウ徳島工場・三重工場、タイクラボウなど6 製造拠点） 合計2,500t-CO<sub>2</sub>削減
- ✓ ボイラーのガス化、冷凍機更新（クラボウ裾野工場・鴨方工場、日本ジフィー食品） 合計1,400t-CO<sub>2</sub>削減
- ✓ 再生可能エネルギー由来の電力導入（クラボウ本社ビル） 合計400t-CO<sub>2</sub>削減

#### ●資源の有効活用と再資源化の推進

更新

- ✓ 廃棄物ゼロエミッションの推進（再資源化率） 2024年度目標 97%（前年度実績 96.0%）

#### ●サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量（SCOPE3）把握

新規

- ✓ カテゴリー1～8 2023年度実績 合計619,600t-CO<sub>2</sub>/年



## 社員一人ひとりが組織に主体的に貢献する「エンゲージメントの高い組織の構築」に取り組む

### 【人事戦略の3つの柱】

#### ① 活力ある組織風土の醸成

アンコンシャス・バイアスの理解浸透、積極的な採用・配属による女性活躍、LGBTQ+の理解促進、積極的な障がい者雇用、ハラスメントのない職場づくりのための全社員を対象とした継続的な研修の実施、などのDE&Iの推進

#### ② 柔軟な働き方の推進

フレックスタイム制度・テレワーク制度・工場休日の増加、有休の取得促進、男性育休取得率の向上、オフィスカジュアル、工場ユニフォームの刷新、安全衛生管理・健康経営の推進

#### ③ 多様な人材の確保と育成

採用力強化のためのエージェントやダイレクトリクティングの活用、採用HPの刷新、通年・リファラル・アルムナイ採用、教育内容定着のための上司へのフィードバック、スマートファクトリー化・事業変革のためのIoT推進・DX活用教育

### 【主な指標】

指標	23/3期	24/3期	目標
エンゲージメントスコア	43%	42%	50%以上

①指標	23/3期	24/3期	目標
管理職に占める女性割合	2.2%	3.0%	3%以上（25/3期末）
新卒総合職に占める女性割合	40.0%	45.0%	30%以上（25/3期）
経験者総合職採用に占める女性の割合	26.1%	24.0%	定めず（男女区分なし）
総合職女性の配属課比率	41.4%	44.8%	45%以上（25/3期末）
障がい者雇用率	2.57%	2.69%	法定雇用率以上

②指標	23/3期	24/3期	目標
男性の育休取得率	39.1%	57.9%	30%以上（25/3期）
有給休暇取得日数	13.6日	14.6日	12日以上（25/3期）
業務上災害発生件数	10件	9件	0件
健康経営有料法人認定取得（偏差値）	認証(48.2)	認証(49.8)	偏差値50以上

③指標	23/3期	24/3期	目標
総合職採用に占める経験者の割合	69.7%	55.6%	定めず
外国籍総合職採用数	1名	1名	定めず
一人当たり社内研修費用	3.4万円	3.3万円	4万円以上

## 事業と関わりの深いSDGs

関連するSDGs	関連する事業活動
<b>繊維事業</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供</li> <li>● 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築</li> <li>● 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用</li> <li>● 熱中症対策、感染症対策のサポート</li> </ul>
<b>化成品事業</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住宅のエネルギー効率改善</li> <li>● 再生樹脂の利用促進</li> <li>● 間伐材の利用促進</li> <li>● 廃材のリサイクル活用</li> </ul>
<b>環境メカトロニクス事業</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全</li> <li>● 再生可能エネルギーの利用促進</li> <li>● 間伐材等廃棄物の利用促進</li> <li>● 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援</li> <li>● 和牛の血統管理による生産効率向上</li> <li>● 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生</li> </ul>
<b>食品・サービス事業</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全で栄養価の高い食品の提供</li> <li>● 災害備蓄対策</li> </ul>
<b>全社共通・その他</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> <li>● 柔軟な働き方の実現</li> <li>● 社会貢献できる技術基盤の構築</li> <li>● 不動産賃貸を通じた住みやすい街づくり</li> <li>● ゼロエミッションの推進</li> </ul>

## 最も重視するテーマ



+

## 多様な人材の活躍推進等

## 繊維事業

- 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供
- 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築
- 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用
- 熱中症対策、感染症対策のサポート

### ■ 取組み事例

# NaTech

天然繊維に機能性を持たせることができる独自技術素材。暖かさ、消臭、吸放湿などの機能を付与でき、洗濯耐久性に優れます。



# Looplus

ループプラス

服の裁断くずや不要な製品から再資源化する独自のアップサイクル技術を活用した循環型ビジネスの構築を目指しています。



# AIR FLAKE

SUSTAINABLE INSULATION

100%リサイクル原料で実現した、天然羽毛レベルの軽さ、保温性、やわらかさ、乾きやすさが特長の中わた素材です。



## 化成品事業

- 住宅のエネルギー効率改善
- 再生樹脂の利用促進
- 間伐材の利用促進
- 廃材のリサイクル活用

## ■ 取組み事例

### クラティスエコ KURATTICE ECO

アルミなどの芯材に木粉入り樹脂をコーティングした合成木材。天然木調などの意匠性と金属の強度を併せ持つ建材・産業資材です。



12 つくる責任  
つかう責任



15 陸の豊かさも  
守ろう



### クランゼロ® シリーズ

ノンフロンで断熱性に優れた新しい発泡剤を使用した高性能硬質ウレタンフォーム断熱材で、優れた気密性と断熱性で快適な住環境を実現します。



11 住み続けられる  
まちづくりを



13 気候変動に  
具体的な対策を



### クランシール® シリーズ

ゴムのような弾性とプラスチックの優れた加工性を併せもつエラストマー素材のフィルムです。太陽電池や建材ガラスの中間膜などの用途で、環境や安全・快適に貢献します。



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



11 住み続けられる  
まちづくりを



## 環境 メカトロクス 事業

- 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 間伐材等廃棄物の利用促進
- 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援
- 和牛の血統管理による生産効率向上
- 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生

### ■ 取組み事例

#### 路面検査コンパクトユニット PG-4

3Dカメラ、距離計、GPSを搭載し、時速100kmで走行しながら短時間で路面の損傷を計測することでインフラ劣化診断の効率化が図れます。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



#### FUNTO [フント]

強力な殺菌・乾燥能力を有し、家畜の糞尿を含む使用済み敷料を、サラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生します。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



#### バイオマス発電事業

間伐材などを燃料としたバイオマス発電事業を展開しており、一般家庭約11,000世帯分の年間使用電力量相当の発電を行っています。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



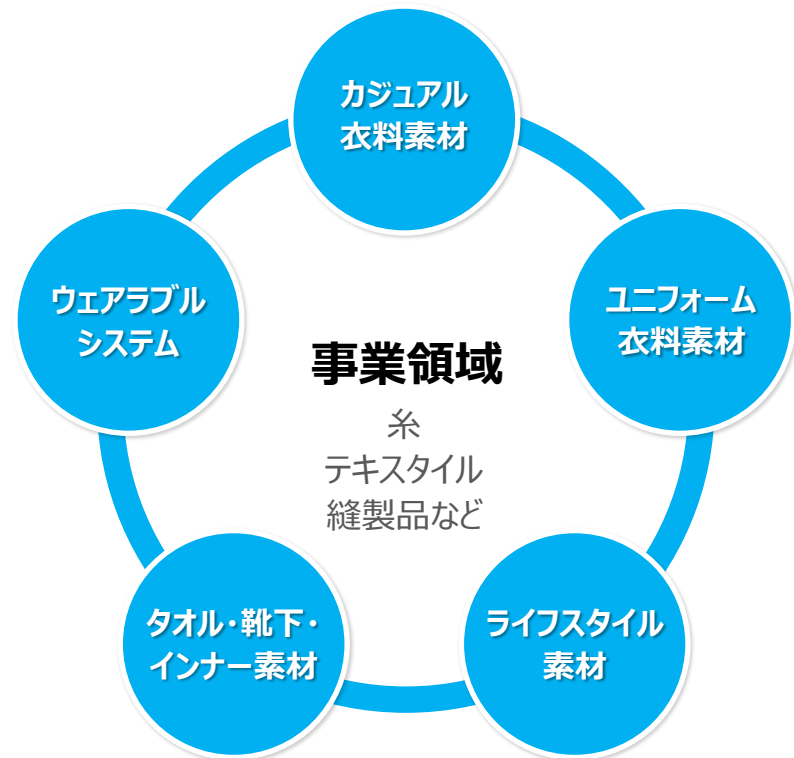
15 陸の豊かさも守ろう



# 事業紹介

## 繊維事業

紡績、織布、染色・加工、縫製における独自技術を活かし、糸では、原料改質技術を活用した高機能製品「NaTech（ネイテック）」の拡販等に注力。テキスタイルおよび縫製品などの繊維製品では、ユニフォーム分野においては、働く人へ安全と快適を提供するビジネスへの転換を進め、カジュアル分野においては、アップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」やサステナブル原料を活用した商品を展開しています。これらの取組みにより、サステナブル社会の実現に貢献していきます。



## 主な製品・技術

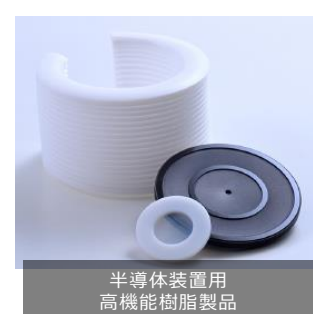
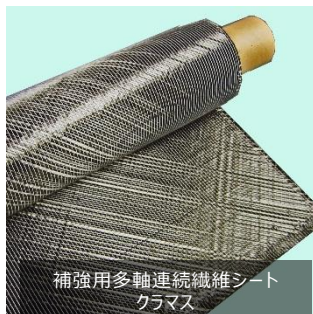


## 化成品事業

独自の原料配合と成形技術により、自動車内装材や住宅用建材・断熱材分野で差別化を強化し、半導体製造関連では高度な加工技術により高機能樹脂製品を拡大。  
また、機能フィルムを自動車分野やエネルギー市場で展開するなど、独自技術により様々な市場において多彩な製品を提供しています。



## 主な製品・技術



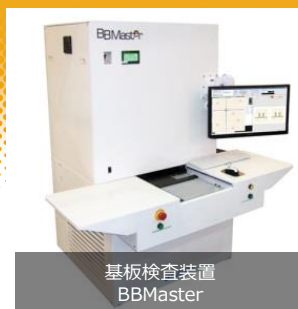


## 環境 メカトロニクス 事業

色のセンシング技術を軸に検査・計測機器でモノづくりの品質向上に貢献するエレクトロニクス事業。排水・排ガス処理技術などの環境プラント技術を基盤にバイオマス発電分野にも進出するエンジニアリング事業。創薬、化粧品開発、前臨床研究の領域で研究試薬や機器、サービスを提供するバイオメディカル事業。モノづくり、研究活動、エネルギー活用分野で、暮らしの安全・安心・快適を支えています。

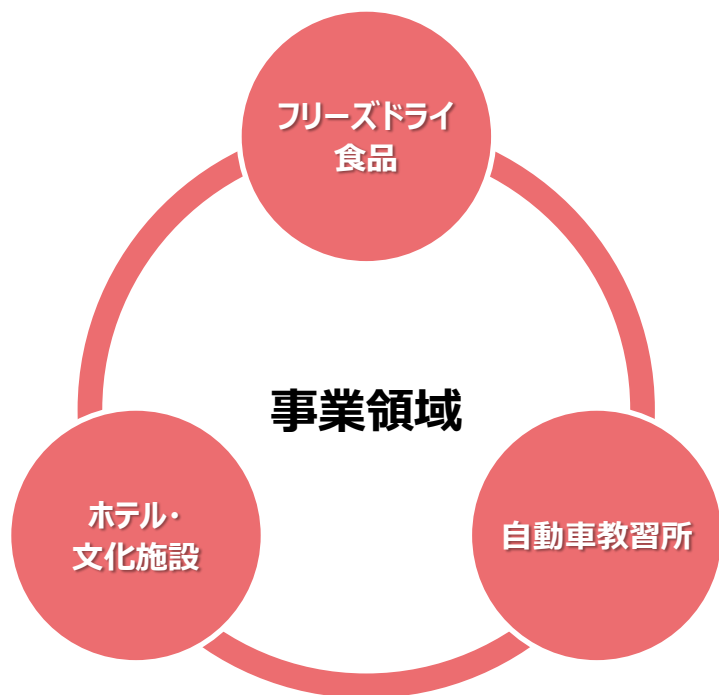


## 主な製品・技術



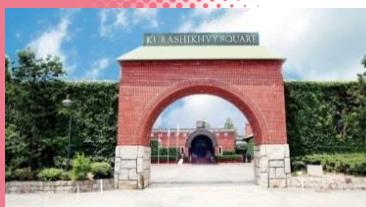
## 食品・サービス事業

食品分野では「日本ジフィー食品」が成型スープなどのフリーズドライ食品を提供。サービス分野ではクラボウ設立当時の工場を活用した複合文化施設である「倉敷アイビースクエア」においてホテルを運営。また、「クラボウドライビングスクール」は地域の“安全”に貢献しています。



### 日本ジフィー食品

1960年設立の「日本ジフィー食品」はクラボウグループの食品事業を担っています。



### 倉敷アイビースクエア

赤煉瓦と蔦の外観が特徴的な「倉敷アイビースクエア」は倉敷美観地区の観光拠点でもあります。

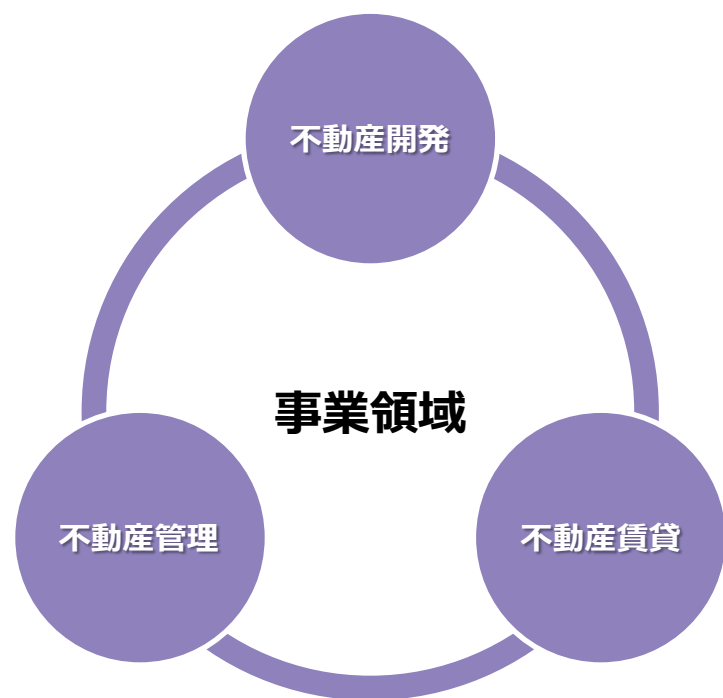


### クラボウドライビングスクール

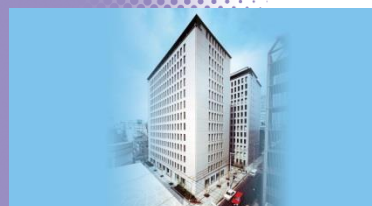
運転の教習を通じて地域の“安全”に貢献している「クラボウドライビングスクール」。

## 不動産事業

クラボウでは全国に多数の工場および関連施設を有しており、その遊休地を有効活用し、資産の健全な運用や、地域への貢献を視野に入れた活動を推進しているのが不動産事業です。



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり、地域の活性化に貢献。

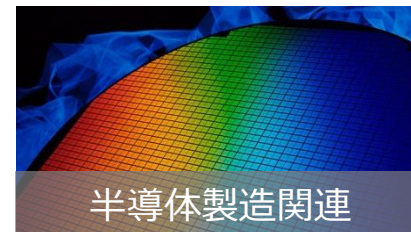
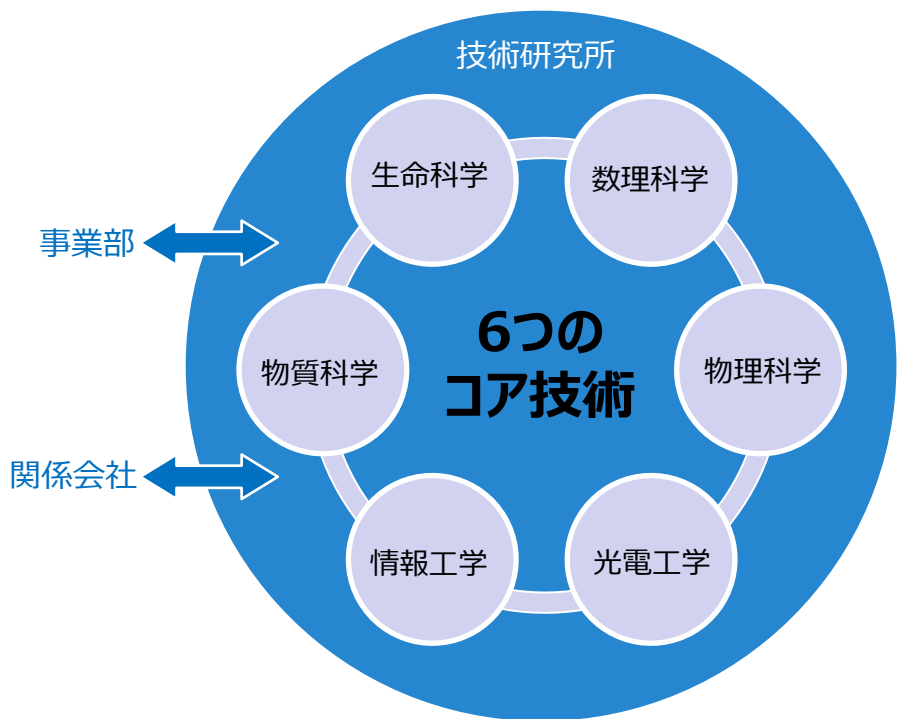


資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」。



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供。

技術研究所では、自由な発想によるイノベーションと知財戦略との連携により、クラボウグループの未来を支える研究開発に取り組んでいます。



## 研究開発テーマ



分野を越えた交流から差別化技術を生み出す独自体制



## クラボウ先進技術センター

技術研究の中心拠点として、先端の実験装置・評価設備を導入し、挑戦的な技術や商品の開発に取り組んでいます。